

荒れ地 古里のため活用



瀬戸内オリーブ社長 松浦 玲子さん 76 香川県坂出市

小豆島のイメージが強い香川のオリーブ栽培だが、本土側のかつて塩田だった土地に6・2畝の農園を開き、3000本を育てる。オイルの生産を始めて6年目を迎えた。結婚後、子育てをしながら福祉サービスの会社を経営するなどしてきたが、農業とは無縁だった。転機は2011年。香川県がオリーブの生産拡大に注力している」と知ったことだ。

亡父が塩田として使っていた土地が、荒れ放題で残っていた。「古里のために有効活用できる」。製品への加工、販売までを目指して会社を設立した。旧知の専門家に協力を仰ぎ、土壌改良からスタート。他産地との

差別化を図るため、豊富なミネラル分を含むカキ殻を農園に敷き詰めた。15年には台風で1割もの木が倒れる苦難もあつたが、従業員4人で丹精した実を搾ったオイルは今年、国際的なコンテストで金賞を受賞。今年は150リットル換算で4500本を出荷する予定だ。

葉やオイルの搾りかすは、香川ブランドの「オリーブハモチ」「オリーブ豚」の飼料に提供。家族連れらが手摘みを体験できる観光農園にするのが夢で、12月9、10日にはオイルの量り売りなどをする催しを開く。「多くの人の支援で今がある。恩返しを」との思いが原動力だ。